

研究課題名	【Web 会議番号 2020_15】 重症果物アレルギーの感作機序に関する研究
フリガナ	モリ ユウジ
代表者名	森 雄司
所属機関（機関名） （役職名）	藤田医科大学 助教
本助成金による発表論文，学会発表	【学会発表】 JSA/WAO Joint Congress 2020 小児耳鼻科学会 【論文】 投稿中

研究結果要約

花粉-食物アレルギー症候群（PFAS）は、通常、新鮮な果物や野菜を食べた直後に、口や喉のかゆみを感じる症状として現れる。しかし、PFAS 患者の中には、アナフィラキシーを含む全身症状を呈する者もいる。ヨーロッパでは、ヒノキの **gibberellin-regulated protein**（GRP）にアレルギー性があることが指摘されており、モモ GRP との交差反応性が認められている。スギはヒノキ科に分類され、日本ではスギ花粉が環境アレルギーの主要な原因物質となっている。しかし、スギ花粉症患者における GRP 感作の有病率に関する研究は、これまでのところ不足している。本研究は、スギ花粉症患者における GRP 感作の有病率を検討することを目的とした。方法は春季に軽度から重度の鼻炎を発症し、スギ花粉特異的 IgE 値が 0.7 UA/mL 以上であった 52 名の患者（中央値 10.5 歳，範囲 5～65 歳，女性 26 名）を登録した。モモ GRP は、モノクローナル抗体カラムを用いたアフィニティークロマトグラフィーで精製した。モモ GRP に対する特異的 IgE 値は、ELISA で測定した。陰性コントロールの平均値に 3SD を加えた値以上のサンプルを陽性とした。また、重症の桃アレルギー患者 2 名の血清を陽性コントロールとした。結果。スギ花粉症患者 52 名のうち、11 名の血清がモモ GRP に陽性であった。結論 スギ花粉症患者の 20% がモモ GRP に感作されていた。